



米百俵デジタルコンテスト関連企画
河川洋一郎 特別展示

超進化の乱舞

— beyond AI —

河川洋一郎 (かわぐちよういちろう)

東京大学名誉教授 / アーティスト

種子島生まれ。1976年CGの黎明期よりCG(コンピューター・グラフィックス)によるプログラミング造形の研究に着手。数理アルゴリズムにより導き出された技術手法による独自の作品群で世界的注目を集める。インタラクティブアート・ジェモーション(Gemotion)の研究作品は後にVR/ARへの応用やプロジェクションマッピングの世界に多数の優秀な人材を送り出した。ベネチアビエンナーレ'95日本館代表作家。SIGGRAPHアカデミー殿堂入り(アジア人初)。国内では、2013年に紫綬褒章を受章。文化庁メディア芸術祭初代総合審査委員長。現在、DCAJ会長、霧島アートの森館長や多数のメディア系大会審査委員長等を務める。

会期 2020.12.20 (SUN)

▶ 2021.1.6 (WED)

10:00 - 19:00 (初日は 13:00 -)

※年末年始(12月29日~1月3日)は休み

会場 アオーレ長岡 市民交流ホールA、ホワイエ
(新潟県長岡市大手通1丁目4-10)

未来への投資の最優先を知識習得と、技術革新にすえた"米百俵"の精神。自然の恵の恩恵を生かしながら暮らしをアップデートするビジョンの長岡市で、私の作品を見て頂く機会に感謝致します。

コロナ禍で世界的な価値観のパラダイム・シフトが加速され、表現の場でも多くの変化が起きました。

私の生命の発生・成長・進化・遺伝のアート&サイエンスについて、考察、研究する姿勢にもそれは影響しています。

複雑系を高めた進化生命体は、サステナブルな未来惑星にサバイバルする花鳥風月。

今回初公開のドローイング作品群は外出自粛期間に半年以上集中して取り組む事であたかも発酵した様に力強くなった気がします。

beyond AI、多様性に富んだ生命のインテリジェンスをヒントに技術革新へ取り入れる事、感性や直感を課題解決に活かす姿勢を皆さんと共有出来たら幸いです。

河川洋一郎

ながおか・若者・しごと機構は、全国の若者を対象に、「米百俵デジタルコンテスト(略称:米100DC)」を開催しています。本コンテストは、ユニークな発想を持つ若者がチャレンジできる環境、先端技術を取り入れた学びの場を提供し、若い才能を発掘、支援するもので、「with KIDS」をテーマに、子どもの遊び、学び、暮らしを豊かにするデジタルプロダクトのアイデアを募集しています。(https://kome100dc.jp)

このたび、本コンテストの特別審査員を務める河川洋一郎氏の特別展を、関連企画として開催する運びとなりました。コロナ禍で生み出されたドローイング作品群を、長岡市で初めて一堂に展示します。1976年から、独自の立ち位置で、日本の先端技術と共に歩み、表現の技術革新に取り組んで来られた河川氏の躍動感あふれる世界をご堪能ください。



このたび、「米百俵デジタルコンテスト」の特別審査員に河川洋一郎氏をお招きしたご縁で、河川氏の特別展を長岡市で初開催できることを大変うれしく思います。

今回展示する作品の多くは、コロナ禍による外出自粛期間中に、「ウイルスに負けないように」との想いを込めて制作されたもので、アートとデジタル(サイエンス)が融合した圧倒的な世界観が表現されています。生命力にあふれた河川氏の作品を、ぜひ多くの方からご覧いただきたいと思います。

市内には、長岡技術科学大学、長岡造形大学をはじめとする4大学1高専があり、アートとサイエンスに関する豊富な財産があります。米百俵の精神が息づく長岡において、本展を契機に、若者をはじめとする多くの方々の感性が刺激され、さまざまな活動に広がっていくことを期待しています。

長岡市長 磯田 達伸

